令和元年度　岡山県立倉敷琴浦高等支援学校　学校評価書

校長　堀部　淑惠

１　自己評価

（１）生徒のキャリア発達を促す授業の実践・充実

①社会的・職業的自立のため、働き続けるために必要な力を育てるための授業づくりについて、研究係や各学年団で研究協議を重ねた。公開授業研究会において、９授業を校外参加者に公開し、２授業を指定授業として参加者とともに研究協議を深めた。全教員が、働き続ける力に示された３つの力に関連付けた授業づくりを行った。本校で３年間取り組んできた研究のまとめを完成させることができた。

②各種検定へチャレンジできる環境を整えるとともに、皆勤賞表彰や各種検定等の挑戦などの紹介・表彰を通じて､全ての生徒の頑張りを生徒・教職員とともに称え合うことで、生徒の自己肯定感や学ぶ意欲、チャレンジ精神の喚起につなげることができた。全ての生徒が、いずれかの検定や大会等にチャレンジすることができた。

③日頃から生徒の実態把握や障害特性の理解に努めるとともに、保護者との相談や前担任等からの情報収集を通して、個別移行支援計画や個別の指導計画を作成することができた。自立活動主任のもと、学年別に検討会を実施しながら、すべての生徒について自立活動指導シートを作成し、指導・支援を行った。家庭訪問や個別懇談で、個別の目標や手立て、支援について保護者とのやりとりを通して決定し、個に応じた指導や支援を行うことができた。

④自己理解に関する授業実践については、校内授業研究と関連づけながら各学年で進めてきた。本校ナビゲーションブックの作成と活用について、進路課、生徒課との連携を考えていく必要がある。

（２）地域、関係機関と連携した進路指導の充実

①今年度進路だよりを８号発行し、時期に応じた内容を発信することができ、校内一帯となる進路指導の充実が図られた。

②関係機関と密な連携を図り、組織的なアフターケアを行った。在校生に対しては、「職業」で地域の支援機関についての理解を図った。今後も居住時における福祉制度説明会等への参加を促し関係機関との連携の必要性を周知していく。

③ナビゲーションブックを作成し、現場実習を通して実習先からの御意見もいただき、修正を繰り返した。移行支援会議で活用することで、充実した協議を行うことができた。生徒を中心に捉えた支援ネットワーク構築ができている。

④高等学校への就労支援や特別支援教育を支えるセンター的機能として、就労支援コーディネーターを派遣した。（５高校、１５名の就労支援を実施）

（３）楽しく充実した学校生活をサポートする体制の充実

①生徒会が地域貢献活動への参加を積極的に呼びかけ、主体的に活動に取り組むことができた。また、年間を通して行う地域での清掃ボランティア活動も定着しており、多数の生徒が様々な地域ボランティアに参加することができている。

②部活動での取り組みを学校祭等で成果発表することができた。余暇活動につながる社会スポーツや文化活動への参加は、十分ではないが、地域の関係機関から情報を集めることができた。

③生徒理解を深め、カウンセリングスキルを高めるための教員研修を実施した。また、保護者と合同での研修も開催し、保護者との協力体制を作ることができた。

④スマホ等の使用時のコミュニケーションについて生徒の学習の機会を持った。適切なコミュニケーションについて学習する機会となった。

（４）共生社会を推進するための支援体制の充実

①公開講座では、就労支援に関する内容を取り上げ、学校内外の方や保護者に対し、センター的な役割を果たすことができた。

②就労支援コーディネーターを中心に、外部機関とも積極的に連携し協力を得ながら、本校生徒の困難さを解決するよう支援することができた。

２　学校関係者評価委員名

重松　孝治　　（川崎医療短期大学　講師）
大島　美栄子　（倉敷障がい者就業・生活支援センター　所長）
片沼　靖一　　（琴東地区社会教育コミュニティ推進協議会　会長）
片山　一夫　　（児島産業振興センター　所長）4 月～ 7 月
西中　学　　（児島産業振興センター　所長）8 月～ 3 月
竹本　浩作　　（児島ハローワーク　統括職業指導官）
三宅　絵美子　（本校ＰＴＡ　会長）

３　学校関係者評価

（１）第１～３回学校関係者評価委員会を計画し、授業参観、意見交換、自己評価アンケート内容検討等を行った。３回目は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、資料配布と御意見の提出で評価委員会とした。